

取扱いの趣旨

智歯周囲炎（P e r i c o）の部位や病態で、各小帯の位置又は形態異常に対して行われる「頬、口唇、舌小帯形成術」を行う必要性は乏しいことから、当該病名で「頬、口唇、舌小帯形成術」の算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【手術】

《令和3年2月22日》

146 頬、口唇、舌小帯形成術

○ 取扱い

原則として、「智歯周囲炎（P e r i c o）」病名で、「頬、口唇、舌小帯形成術」の算定を認めない。

○ 取扱いを定めた理由

頬、口唇、舌小帯形成術は、各小帯の位置又は形態異常に対して行われる手術であるため、智歯周囲炎の部位や病態で、小帯の形成を行う必要性は乏しいと考えられる。

グラフの見方

検証不要(少数事例)

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

頬、口唇、舌小帯形成術を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（智歯周囲炎（P e r i c o））に対して頬、口唇、舌小帯形成術を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、頬、口唇、舌小帯形成術が査定・返戻となった割合

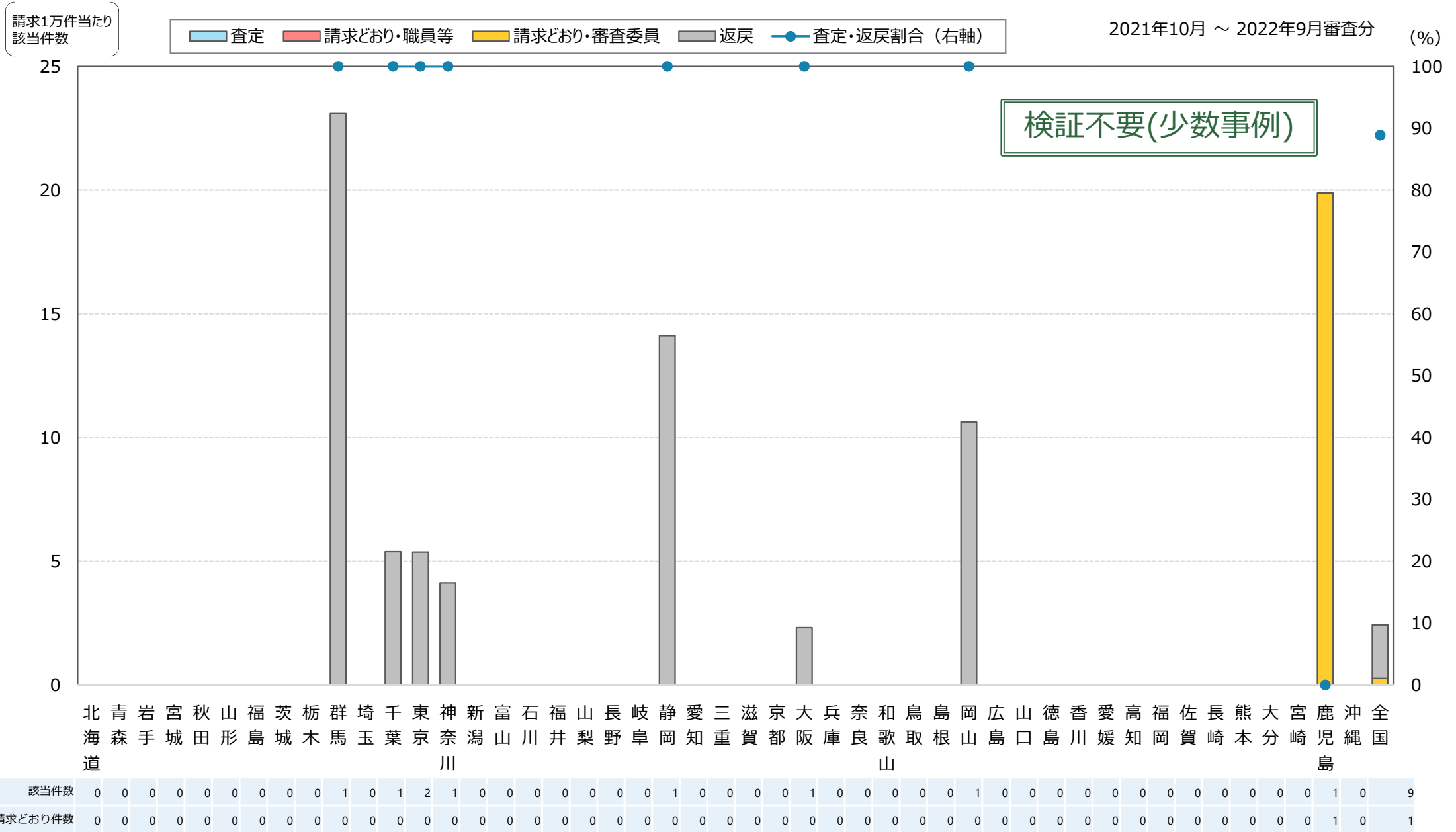
【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 88.89%
- 検証を必要とする都道府県 0

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県		査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等		対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員		//
該当件数（全国）	智歯周囲炎（P e r i c o）に対して頬、口唇、舌小帯形成術を算定	9件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	8件
検証を必要とする審査	請求どおり	1件



【該当件数】 智歯周囲炎（Perico）に対して頬、口唇、舌小帯形成術を算定しているレセプト件数